

■東京盃 (JpnII) アラカルト (過去 50 回の分析)

※第 6 回 (昭和 47 年) は「NET 盃」の名称で実施

※第 29 回 (平成 7 年) からは指定交流競走として実施

※第 31 回 (平成 9 年) からはダートグレード競走として実施

※第 20 回 (昭和 61 年) は内回りコースで実施

※第 36 回 (平成 14 年)・第 37 回 (平成 15 年) は大井ダ 1190m で実施

※第 16 回 (昭和 57 年) は 2 頭が同票数で単勝 2 番人気だったため、単勝 2 番人気馬は 51 頭、単勝 3 番人気馬は 49 頭

※記録は平成 29 年 9 月 13 日時点

■ 1 番人気馬より 2~3 番人気馬の方が 3 着内率は高い

単勝 1 番人気馬は 15 勝、2 着 7 回、3 着 5 回、4 着以下が 23 回で、3 着内率は 54.0% だった。一方、単勝 2 番人気馬は 11 勝、2 着 9 回、3 着 8 回、4 着以下が 23 回で、3 着内率は 54.9%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 7 回、3 着 9 回、4 着以下が 21 回で、3 着内率は 57.1% となっている。わずかな差ではあるものの、単勝 2 番人気馬や単勝 3 番人気馬の 3 着内率が単勝 1 番人気馬の 3 着内率を上回っている珍しいレースだ。

■ 上位人気馬が 1~3 着を占めた例は 11 回

過去 50 回のうち 38 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 17 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフイニッシュ決着は 11 回ある。

■ 複数回の優勝経験がある馬は 6 頭、“連覇”は 5 頭

東京盃において 2 回以上の優勝経験があるのは、第 11 回と第 12 回を制したトドロキヒリュウ、第 17 回と第 18 回を制したスズユウ、第 21 回と第 25 回を制したテツノヒリュウ、第 28 回と第 29 回を制したサクラハイスピード、第 31 回と第 32 回を制したカガヤキローマン、第 40 回と第 41 回を制したリミットレスビッドの 6 頭だ。なお、このうちテツノヒリュウを除く 5 頭は 2 回連続の優勝だった。

■ 優勝馬のちょうど 7 割が 5 歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 10 勝、4 歳が 9 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 2 勝、9 歳が 1 勝だった。幅広い世代から優勝馬が出ているものの、3~5 歳の馬が全体の 70.0% を占めている。

■牝馬は10勝、外国産馬は4勝

牝馬の優勝例は第2回のオリコ、第8回のイナリトウザイ、第9回のオサイチテユダ、第14回のカオルダケ、第16回のレイクルイーズ、第22回のイーグルシャトー、第30回のトキオクラフティー、第34回のベラミロード、第36回のアインアイン、第46回のラブミーチャント、計10回ある。一方、外国産馬の優勝例は第30回のトキオクラフティー、第35回のノボジャック、第45回のスーニ、第49回のダノンレジェンドと、計4回あった。なお、優勝を果たした外国産馬4頭はいずれもアメリカで生産された馬だ。

■3着内馬のうち1/3は地方所属馬、2/3はJRA所属馬

指定交流競走となった第29回以降の計22回に限ると、地方所属馬は9勝、2着5回、3着8回、JRA所属馬は13勝、2着17回、3着14回となっている。3着以内馬延べ66頭のうち、ちょうど3分の1が地方所属馬、3分の2がJRA所属馬だ。なお、地方所属馬によるワンツーフイニッシュ決着は第31回、第42回の計2回、JRA所属馬によるワンツーフイニッシュ決着は第35回、第38回、第39回、第40回、第41回、第43回、第47回、第48回、第49回、第50回の計10回あった。

■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、佐々木竹見騎手、高橋三郎騎手が4勝でトップタイとなっている。なお、現役のジョッキーに限ると内田博幸騎手の3勝がトップだ。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、昨年(2022年)の第50回で3度目の優勝を果たした加用正調教師が単独トップ。

■1番から16番まですべての馬番が優勝例あり

枠番別の勝利数を見ると、9勝の8枠が単独トップ。1枠、2枠、3枠が各7勝で2位タイだった。また、馬番別の勝利数を見ると、1位は8勝の3番、2位は7勝の1番、3位は6勝の6番、4位は5勝の11番、5位は4勝の2番と5番である。なお、他の馬番はすべて1~2勝で、未勝利の馬番はない。

<伊吹雅也>